

「来てくれはるわ!!...来てくれはるって言うてはるわ!!」...
それはその言葉から始まったのです。

そう...です「名塩の聖天さま」...始まり...のお言葉だったのです。

そして年が明け...21年1月10日...「初接心」の日...その話を 努くんに...し
でも...どこに行ったら「聖天さま」のご神体が...
「仏像・仏師」いえ 古美術店? 等と...分からない!の連続でした

それで...思わず本堂の「ご宝前」に手を合わせて...
「すみません ご自分で来て下さい!」
「すみません ついでにお金も 持って来て下さい!!」と...

今なら笑えるほど「アホ」なことを 頼んでいました。
もちろん努くんも...連られて 同時に手を合わせて...いました。

翌...11日 師匠と40年来の知り合いと...先日お訪ねした お寺のご住職と...が
お越しの折...そのお話をしている時...ご住職が...
「生駒さんで無かったらあかんのか?」とお尋ねになり...
「いえ...そうでは無いのですが...」「生駒さんで 約束したので...」と
申し上げていましたら...「うちの「聖天さま」上げるわ...」と...

えらい話にと...展開していったのです。

明けて12日早朝...6時10~20分頃 電話が鳴りました。
朝の勤行...お勤め中...だったので...取らずに...でも 何か気に掛かり...
携帯を...足元に...で
鳴りました...取るとご住職...でした。
「昨夜夢を見たんや「聖天さま」が 盗まれた夢を...それで気に掛かって...
一睡もせず 夜の明けるのを待って 今 本堂に行ったら いてはったんや...
あんたと 約束してたのに 無かったらどうしよう...と 心配で 心配で...
そやから今から持っていくわ」と...

お勤め中...とお伝えして...午後にお昼からに...と 御願ひして...
栄子ちゃん(同居人の方)に電話して早く帰って来て!!と

彼女が 帰り着くと同時に ご住職も...来られ...
「ほら見てみ...聖天さまやで...」と 御厨子から 出された
(沢山の 綺麗な紙や 紫の布で包まれて...)

「聖天さま」を手渡され...ました。
「えッ~触ってもいいのですか~」「お性根は抜いたあるから...大丈夫や」
「もうあんたの聖天さまやでえ~」...と
「ちょっと御厨子が痛んでるから 今から 京都に修理を頼みにいこ」
と
唯^{わたくし}が 胸に抱き抱えて車に同乗し 京都へと...21年1月12日の午後...です。

修理の期間も金額も...聞かないまま...お預かり頂き...そのまま1年が経過...
ずっと「梨^{なし}(無し)の礫^{つぶて}」...でした。

電話を掛けても「未だ...ちょっと...」...「もう少し...掛かります...」とか
頼りない返事...ばかりでした。

ある時...その話を...(この方のことは後に詳しくお話させていただきますが...)
明慶師(平成の大仏師松本明慶師)に「聖天さま」は...と尋ねられ そのお話をしている時...
「そんなバカな話はない...今ここから電話しなさい」と
電話機を貸して下さいました(唯^{わたくし}の携帯では圏外でしたので...)
それでもはっきりせぬまま...電話を切り...後日 改めて連絡し...

やっと...やっとですが

お迎えに行く事に...なりました
忘れもしません 22年2月2日...でした

無事にお帰りになるなら...何も言わず何も聞かずにお迎えしよう...
「み佛さま」のこと...だから「一般の物」の...修理ではないのだから
と 自分自身に いい聞かせて...お迎えに 上がったのです...が

何か違う...大きさが違う...と...懸念が退かず...
思わず^{つぶや}呟いたのです...「お預けた「聖天さま」とは違いますよね」と
「そんなことおへん...でえ」
「でも私が抱き抱えて...こちらに何ったのですから...手が覚えています...」
「何か...思い違いしとおいやす...」
「間違いおへん...」と
繰り返されて...「仏さまが...」「聖天さま」が いいとおっしゃっているのなら
それでいい...じゃない...と自分に言い聞かせて...

胸に抱いて...お供して...帰って来ました が...心は 晴れません...でした。

戻ってからも...箱を開ける気にもならず...許せない心で 一杯でした。

こんなことが許されてあるなら...「商道德」や「物の道理」はどうなるの...
それでもそのまま京都で商売は続けていける...そのことが...

京都ってそんなとこ...

「京都の仏具屋さん」で...そんなものなの...

全てが皆が そうでない...と分かっていても...です。
特に佛教の...佛さまや お道具を扱う仕事...大切な お商売なのに...
(今...でも まだ 思います かなりしつこい...ですね もう 忘れるよな!...)

でも...その答は後日...ある方の言葉で...ぱアッと晴れる時が来るのですが

その「聖天さま」を 箱から出て頂く気に...なり...箱を開け...
包み紙を解き...いざ「ご神体」を...取りだして...いる時...

よろけた訳でもなく...^{めまい}目眩...でもなく...

^{わたくし}唯の躰が宙を舞っていました。

着地?した所は...「ご神体」のお入りになっていた外箱...でした。

どう考えても...その箱の中に入るのはかなりのムリ...が あるはず...です...が
(その当時...体重は55キロ位...身長は若い頃160でしたが今は縮んだのでしょうか156?位...)

気がつくと「お姫さま抱っこ」状態...でした
どうしたら...この箱から抜け出せるのか...と 思えるほど
ぴったりと手足を支えられて...

人生...で...いえこの世に 沢山の方がおられますが
「聖天さま」に...お姫さま抱っこ...をして頂いたのは...
後にも先にも...^{わたくし}唯 くらいでしょうね。

光栄を通り越して...勿体なくて 嬉しくて
一度に ご機嫌が直りました。

勿体ない表現ですが...「^{わたくし}唯のもの!!」なんて...
思い込めるほど...の「^{はい}氣」の入り様...です。